

4人の専門家が
答える!

条件別で探す



株式会社高齢者住宅新聞社
代表取締役社長

網谷 敏数

株式会社全国賃貸住宅新聞社代表取締役社長を務め、平成18年4月「週刊高齢者住宅新聞」を創刊、現職へ。高齢者の住まいと介護・医療などをテーマに取材活動を展開。「高齢者住宅フェア」「住まい×介護×医療展」を主催している。

網谷氏の ホームを 選ぶポイント

人材教育に力を入れている施設を選ぶ

良いホームの条件のひとつとして、質の高いスタッフがいるかどうかが挙げられます。人を大事にしているホームであれば、スタッフにどんな研修・教育を実施しているのか、運営会社のホームページに書いてあることが多いのでぜひチェックしてみてください。教育をおろそかにしているホームは、スタッフの離職率が高く、雰囲気も悪くなりがちです。介護に関して知識がまったく無い人は、地域包括支援センターへ行き、介護の専門職員にアドバイスを求めるのも良いでしょう。

働く施設の定着率や総従業員数がどれくらいなのかを調べることができます。気になる施設があったら、ぜひチェックしてみましょう。

高山氏の ホームを 選ぶポイント

職員の定着率が低い施設は要注意

ホームの良し悪しを決めるひとつの指標となるのが、そこで働く職員の定着率です。

定着率が低く、職員がすぐ辞めてしまうような職場環境のホームは全体的に雰囲気

が悪く、職員の入居者への対応も適切に行われていない可能性があります。厚生労働

省が公開している「介護サービス情報公表システム」[※]を利用することで、そのホームで

※<http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>



ティー・オー・エス株式会社 代表取締役

高山 善文

福祉・介護業界を専門分野とするコンサルタント。福祉系大学卒業後、大手介護企業を経て独立。30年に及ぶ介護業界での知見を生かし現在は、外国人介護士、介護ロボット、海外介護ビジネス展開を業務にしている。介護支援専門員、東京都福祉サービス第三者評価者。

高齢者ホーム

ロケーション P80-81 / 施設環境 P82-83 / アクティビティ P84-85 / 食事 P86 / 介護環境 P87

このコーナーでは、高齢者ホームに詳しい4人の専門家から聞いた、ホーム選びのポイントと条件別で選ぶこだわりのホームをご紹介します。



株式会社タムラプランニング&
オペレーティング 代表取締役

田村 明孝

高齢者住宅開設コンサルティングは500件以上、開設ホームは30棟を超える。高齢者住宅・介護保険居宅サービス・都道府県などエリア情報をデータベース化し販売、高齢者住宅への入居検討者に対する相談センターも開設している。

田村氏の ホームを 選ぶポイント

直感・第一印象こそ大切に

ホームを見学する際、「雰囲気がいまい」「なんとなく不快感がある」など、第一印象で感じるイメージも、ホーム選びでの重要なポイントです。人影が少なく、雰囲気が暗いと感じた場合は、職員の数が十分でないorホームの人間関係が悪く、自分の部屋から出たがらない入居者が多い、という可能性があります。担当者が説明をしたがらない、カタログには書かれない現場のリアルを感じるには、直感・第一印象で感じることも大いに参考になるのです。

山崎氏の ホームを 選ぶポイント

ホーム選びのベストタイミングは50代

ホーム選びは、50代の元気なうちに済ませておきましょう。70〜80歳を超え、体力や判断力が鈍っている中でのホーム選びはとても困難だからです。また子どもがいる場合は、自分が良いと思ったホームを3つくらいに絞り、子どもに伝えておきましょう。いざ自分に何かあったとき、ホームを探すことになるのは子どもの役目になってしまいます。仕事や私生活で忙しい子どもにも負担をかけないよう、元気づけながら希望のホームを決めておくことが大切です。



NPO法人 二十四の瞳
一般社団法人 百寿コンシェルジュ協会
理事長

山崎 宏

「二十四の瞳」での12年間に及ぶ高齢者相談対応ノウハウを体系化し、認定資格「百寿コンシェル」を創設。法律や契約を拠り所にするのではなく、親子の絆をベースとする終活を支援できるプロを育成している。